

## 後代の延寿像（上）

# 蓮宗祖師としての延寿

柳 幹 康

延寿が編んだ『宗鏡録』すきやうきやくは後に仏教の正統説と公認され、仏教の一大聖典集たる大蔵經だいざうきやうに収められます。そして後の人々は正しい仏教を求めて『宗鏡録』を紐解くとともに、あるべき仏教者の理想像を延寿に投影してきました。今回と次回の二回は後代の延寿像の変遷——人々がどのように延寿を理解していったのか——を見てまいります。

『宗鏡録』が大蔵經に収められるのは延寿の没後約百三十年の十二世紀初め、北宋の時代のことです。当時の禅僧たちは大蔵經の出版に積極的に参与するとともに、皇帝の勅許ちくきょを得て『宗鏡録』を含む複数の禅籍を次々と大蔵經に収め刊行していきました。つまり宋代の禅僧たちは天下の最高権力者たる皇帝の威光のもと、禅宗の典籍を仏教の聖典として世に送り出していったのです。

延寿像の原型は、北宋の初めに延寿を直接

知る人物により編まれた伝記に求めることができず。そこにおいて延寿は専らもっぱら禅宗の祖師として描き出されており、念仏や往生といった浄土に関する記事は一切含まれておりませんでした。

ところが北方異民族の脅威により社会不安が高まり、人々の間に浄土の教えが広まりだすと、浄土に関する伝説が延寿の伝記に挿入されていきます。その古い例が一〇八四年成立の『新修往生伝』に見えるもので、(1)延寿の念仏の靈験に時の国王せんおうしやく錢弘俶が感嘆した、(2)延寿が没後最高位の往生を遂げた、とあります。それにやや遅れて成立した『永明智覚えいめい禪師ちかくぜんじ方丈実録』には、(3)延寿が修行の方針について思い悩み、仏像の前でクジを引くことで浄土に向かう実践を行うことに決めた、と記されています。

この三つはいずれも古い伝記には見えない

後世の伝説に過ぎませんが、後の蓮宗れんしゅう祖師としての延寿像形成に不可欠の要素となります。蓮宗とは中国浄土教の一派で、延寿が没して二百年あまり後の十三世紀南宋の時代に台頭し、独自の祖統説そとうせつ(歴代祖師の系譜)を整えました。当時編まれた『仏祖統紀』は蓮宗の第六祖として延寿の名を挙げており、その伝記は先に見た三つの伝説を組み合わせることで描き出されています。このように延寿は、当時の人々の浄土に対する憧憬を反映する形で、その身に蓮宗祖師の衣をまとったのです。

ただしこの時点で延寿は、禅宗祖師という元来のイメージの上に蓮宗祖師という新たなイメージが加えられただけで、その禅と浄土の関係については特に言及されていませんでした。ところが蓮宗が広まり禅宗に匹敵するほどの勢力を持つと、両者の関係に人々

の関心が集まり、双方の祖師とされる延寿が議論の俎上そじょうに載せられるようになります。

元代を代表する著名な禅僧中峰明本ちゅうほうみんほん（一二六三—一三二三）は、禅と浄土の兼修を認めない自身の立場を延寿に投影し、延寿が禅と浄土を併あわせ説いたのは、あくまで人々を導くための方便に過ぎなかったとします。それに対し明末の四大高僧のひとり雲棲株宏うんせいしゆこう（一五三五—一六一五）は、当時過激化していた禅の逸脱を矯ためるために禅と浄土の兼修を重んじ、その立場を投影して延寿を「禅浄一致」の祖師と讃えました。次のように言います。

延寿は禅宗所伝の真理を伝えるのみならず、浄土のことも心に刻んでいた。その自他ともに利する偉大な実践と誓願は、万世を永としまえに照らすものである。かかる延寿は（次の仏とされる）弥勒みらくの降臨

と言うべきか、それとも（浄土教の大成者たる）善導ぜんどうの再来と言うべきか。

（『往生集』巻一）

株宏自身が没後蓮宗祖師に列せられたことで、このような彼の延寿理解も世に広まりました。かくして延寿は「禅浄一致」——近世中国仏教の二大潮流となる禅宗と蓮宗の統合——を果たした偉大な祖師として人々の脳裏に刻まれ、広く尊崇されることとなったのです。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ㄆ切りは毎月1日です。

## 花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

花園  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第67巻 第11号(通巻第795号)  
平成29年11月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】畠中寿浩

【印刷人】喜田眞司

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

表紙の絵「ちよっとちようだい」



お兄ちゃん「ちよっと」って言ったのにいっぱい食べちゃった。なんだかしょっぱいチョコレートです。 絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>

臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…………… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。  
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。